

環境教育原論 Principles of Environmental Education		全専攻		専攻必修科目		
		1年	前期	2単位	必修	講義
		担当者(部屋番号)				
		井口 博貴 (814)				
【 授 業 目 標 】						
環境教育の名称そのものは新しいものであるが、実際にこの教育は現代に始まったものではない。人間が原始時代から自然を利用、共存するためには、程度の差こそあれ、それらは行われてきた。すなわち環境教育学を歴史的、哲学的アプローチをもって考察し、現代の方法論の分析へと進む。						
【 授 業 方 法 】						
講義と板書を主体として進めて行く。ノートをとることが多くなると思うが、この講義が終わったころはそのノートが一冊の参考書となるような方法で行う。例年好評なのでこの方法で行う。必要ありと感じた時はプリント、視覚資料(OHP, POWER POINT)も併用する。						
【 授 業 計 画 】						
<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション：環境教育の限界 - 外発的教育を行っていないか 2 環境の定義、環境科学とエコロジー 3 環境教育の定義の分析 4 人類史のアプローチ：環境破壊とホモサピエンス 5 縄文思想 - アニミズム 6 仏教思想と環境保護論、風土と環境意識 7 日本の環境意識の発達：弥生時代～安土桃山時代、江戸時代（日常生活、農業、庭園） 8 江戸時代のミクロ的環境負荷問題：「自然真営道」、「大学或問」の分析、「エミール」との比較 9 宗教自然保護論への批判：熊沢蕃山、南方熊楠の世界 10 明治における日本エコロジズム - 環境教育のめざめ：足尾鉍毒事件 11 日本における環境教育のルーツ：学制頒布 理科教育 公害教育 環境教育 12 欧米における環境教育のルーツ：コメニス、ルソー 自然地理学 エコロジー教育 ネイチャースターデ運動 13 日本の総合学習的環境教育：合科学習、郷土教育、生活科 14 欧米の総合学習的環境教育：ナショナルカリキュラム、事実学科、STSカリキュラム 15 総括 						
教科書	なし		評価方法	出席率、平常点、最終試験の結果による		
参考書	なし		留意点	特になし		